

ハスモンヨトウによる農作物被害に注意してください！

岡山県病害虫防除所の9月3日～7日の巡回調査によると、県下全域のハスモンヨトウ若齢幼虫の食害によるダイズの被害葉（白化葉）の発生圃場率は20.0%で、平年（26.4%）並ですが、赤磐市のフェロモントラップにおける8月～9月1半旬の雄成虫誘殺数は、4,340頭で平年（1,902頭）の2.3倍と多くなっています。

本虫は広範な作物を加害します。下記（5）の加害作物を栽培している圃場では、注意深く観察し、幼虫の発生を確認した場合は速やかに防除を実施してください。今後、本虫の増殖に好適な高温乾燥条件が続くと幼虫による被害が拡大するおそれがあるため、現時点で幼虫の発生を認めなくても、引き続き注意してください。

＜防除対策及び防除上の参考事項＞

- （1）若齢幼虫が群生している被害葉（白化葉）を切り取って処分する（図1）。
- （2）幼虫が中齢（体長約2cm、図2）以上になると圃場に分散して食害するようになり、被害量が増大するだけでなく、薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫期に薬剤散布を行う。
- （3）薬剤散布に当たっては薬剤が葉裏にも十分かかるよう留意する。また、薬剤散布後は幼虫の生死等防除効果を確認するとともに、その後の幼虫の発生に注意する。幼虫が生存している場合は、薬剤抵抗性の発達が懸念されるので、系統の異なる薬剤で防除する。
- （4）ダイズ及びエダマメにおける主な防除薬剤は表1、2のとおりであるが、その他の作物については、各作物に登録のある薬剤で防除する。なお、薬剤抵抗性の発達の恐れがあるため、同じ系統の薬剤の連用や効果が低下した薬剤の使用は避ける。また、薬剤の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努める。
- （5）本虫はダイズ以外に、雑穀ではアズキ、野菜ではサツマイモ、サトイモ、キャベツ、ナス、ハクサイ、ダイコン、カブ、レタス、ネギ、トマト、ピーマン、ニンジン、イチゴ、アスパラガス、ブロッコリー、果樹ではブドウ、カキ、カンキツ類、花きではキク、バラ、シクラメンなど広範な作物を加害する。



図1 若齢幼虫の食害によるダイズの白化葉と卵塊



図2 中齢幼虫（体長約2cm）

表1 ダイズにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤

系統名	薬剤名	農薬使用基準		
		使用時期	使用回数	希釈倍数・使用量
合成ピレスロイド系剤	トレボン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	1,000倍
	トレボン粉剤DL (*1)	収穫14日前まで		4kg/10a
IGR剤	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2,000～4,000倍
	ロムダンフロアブル	収穫14日前まで		2,000倍
	ロムダンゾル	収穫14日前まで	3回以内	1,000倍
	ロムダン粉剤DL	収穫14日前まで		4kg/10a
	ノーモルト乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2,000倍
	カスケード乳剤	収穫7日前まで	2回以内	4,000倍
	マトリックフロアブル	収穫前日まで	3回以内	2,000～3,000倍
その他	アニキ乳剤	収穫前日まで	3回以内	2,000～3,000倍
	プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	1,000～2,000倍
	フェニックス顆粒水和剤	収穫7日前まで	3回以内	2,000倍
	フェニックスフロアブル	収穫7日前まで		2,000～4,000倍
	プレバゾンフロアブル5	収穫7日前まで	2回以内	4,000倍
	トルネードエースDF	収穫7日前まで	2回以内	2,000倍
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	1,000～2,000倍
	ベネビアOD (*2)	収穫7日前まで	3回以内	2,000～4,000倍
	ディアナSC (*1)	収穫前日まで	2回以内	2,500～5,000倍

(*1) 豆類（種実）で登録

(*2) TPNを含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬及び銅剤との混用は薬害のおそれがあるので混用しない

表2 エダマメにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤

系統名	薬剤名	農薬使用基準		
		使用時期	使用回数	希釈倍数・使用量
合成ピレスロイド系剤	トレボン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	1,000～2,000倍
	トレボン粉剤DL	収穫14日前まで		3～4kg/10a
IGR剤	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2,000～4,000倍
	ノーモルト乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2,000倍
	カスケード乳剤	収穫前日まで	2回以内	4,000倍
	マトリックフロアブル	収穫前日まで	3回以内	2,000～3,000倍
その他	アフーム乳剤	収穫3日前まで	2回以内	1,000～2,000倍
	アニキ乳剤	収穫前日まで	3回以内	2,000～3,000倍
	プレオフロアブル (*1)	収穫前日まで	2回以内	1,000～2,000倍
	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	2,000倍
	フェニックスフロアブル	収穫前日まで		2,000～4,000倍
	プレバゾンフロアブル5	収穫3日前まで	3回以内	4,000倍
	トルネードエースDF	収穫7日前まで	2回以内	2,000倍
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	1,000～2,000倍
	ベネビアOD (*2)	収穫前日まで	3回以内	2,000～4,000倍
ディアナSC (*1)	収穫前日まで	2回以内	2,500～5,000倍	

(*1) 豆類（未成熟）で登録

(*2) TPNを含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬及び銅剤との混用は薬害のおそれがあるので混用しない

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用するようにお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

